

◆ 研究部 ◆

新たな教育と校長の役割に関する研究の始まり

研究部長

田村 博 孝



研究主題に「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を掲げ、新たな教育の在り方を考える研究が、本年度から始まった。「新たな知を拓く」教育では、学校教育法の学力の三要素を自らの将来に生かすとともに、それらを社会問題の解決や国家・社会の発展に役立てていこうとする力を育成することを求めようとしている。また、「人間性豊かな社会」では、人間的な絆や支え合う仕組みを重視しようとしている。研究主題設定の背景には、知識基盤社会やグローバル化の進展などの社会情勢があり、これらを踏まえ、不易と流行を見極めつつ、教育のイノベーションをも視野に入れた取組を求めていこうとしている。

本年度は、副主題として「志をもち、未来に向かって共にたくましく生き抜く実現力のある人間の育成」を掲げ、「主体的に生きる力」、「他者と共に生きる力」、「志」などをキーワードに、教育の在り方や校長の役割を追究して

きた。特に小学校教育においては、「子ども一人一人が目標を明確にし、互いに切磋琢磨しながら学び、自ら考え、身に付けた知恵を発揮して新しい知を創造し、人間性豊かな未来社会へ向かって、夢や希望を現実のものにする力」(＝実現力)の育成を提案し、十の研究領域で組織的・計画的に研究を進めた。その成果は、山口県小学校長会秋季教育研究大会(下関大会)、中国地区研究大会(鳥取大会)において、代表支部により紹介された。

また、下関大会の運営にあたっては、代表支部の発表が分科会の協議で生かされるよう、協議の視点を明確にするなどの試みがなされていた。

平成二十七年度の全国連合小学校長会研究協議会山口大会の開催を視野に入れたとき、二十六年度の岩国大会は、そのプレ大会とも位置づけられる。大会成功に向け、会員のご協力を切に願いたい。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 対策部 ◆

未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けた提言を

対策部長

磯部 昭彦



本年度も各支部の校長先生方の貴重なご意見を参考にして、提言書の作成に取り組んできた。また、中学校長会や教育関係諸団体と連携しながら、教育行政と学校が力を合わせ山口県教育を充実させるといふ視点で、提言書を作成した。

提言項目の中で、「学習指導要領の実施に伴う諸課題への対応」については、現行教育課程が実施されて三年経過したということで、本年度の大きな提言項目からは外すことにした。それに伴って、「小学校教育の質の向上を図るための環境整備」の中に、「外国語活動の充実を図るとともに、キャリア教育、食育、ICT教育の推進等の研修機会を拡充することにより、今日的な課題に対応できる体制をつくる」という項目を加えることとした。

本年度新たに加えた『キーワード』は、30人学級化の一層の推進、教頭・養護教諭・学校事務職員の未配置校の解消、小学校教育に情熱をもち実

践的指導力のある人材の採用、「若手人材育成の強化・加速一〇〇〇日プラン」による若手教員の育成、初任者配置校における初任者研修の工夫改善、コミュニティ・スクールの充実等である。

また、本年度新たに加えた内容は、「教育公務員の業務の専門性や特殊性を踏まえた待遇の改善を図る」という項目である。この項目については、特に、最近の教育を取り巻く情勢の中で、校長先生方から出された多くのご意見や切実な想いを集約したものである。

提言書提出後の十月八日に、県教育委員会との教育懇談会を開催する予定であったが、当日台風二十四号接近のために、残念ながら中止となった。

今後も、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けて、校長会として努力すべきことは何か、教育行政に提言すべきことは何かを明らかにすることで、校長会の存在感を示していきたいと思う。